

要望書提出!

# 血縁・非血縁の不公平是正を

## 血縁移植の保険適用分医療費返還請求へ



発行所  
特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク  
推進連絡協議会  
〒160-0005 東京都  
新宿区愛住町23-1  
Woody21-9階  
TEL.(03)3356-8217  
FAX.(03)3356-8637  
発行責任者:笠原 慶一  
http://www.marow.or.jp/  
E-mail:office@marow.or.jp

郵便振替口座  
00150-4-15754  
銀行口座  
三井住友銀行 新宿通支店  
普通 5666655

今年4月、診療報酬の改定により、骨髄移植術は「複数のドナー候補者の検査費用等の評価を行う」として、1万5000点(15万円)が加算されました。これを受けて、骨髄バンク(骨髄移植推進財団)では、移植病院から保険適用になった部分のHLA検査料等の費用として返金を求め、骨髄バンクの患者負担金として充当相殺するシステムを確立し、すでに運用を開始しています。

こうした骨髄バンクを介した非血縁者間骨髄移植では保険が適用された背景が反映されていますが、一方、ドナーが血縁者の骨髄移植の場合には、保険点数が加算された趣旨が生かされることはなく、保険請求者である移植病院の会計に入ったままになっている状態です。明らかに同じ骨髄移植という医療を実施しても、ここには不公平が存在することになっています。

患者は、さい帯血や末梢血幹細胞などを含めた移植を実施するかしないかを含め、発病から間もなく、患者本人はもちろん、兄弟や両親などのHLA検査を必ず実施します。発病早期の段階でこうした検査は実施され、患者は費用を事実負担しています。それが、骨髄移植を行った段階で初めて保険適用となるわけで、移植のずっと前に負担は発生しているのが現状です。

すでに2000年4月の保険改定で、それまで保険で認められていなかったHLA検査料として患者とドナー1分の32000点(3万2000円)が加算されてきました。その加算分も血縁者の移植では移植病院の収入となっていたのです。

今回、こうした事態を解決するべく、全国協議会では7月23日に厚生労働大臣にあって要望書を提出しました。また、この4月以降に血縁者間骨髄移植を行った患者家族には、移植病院に対して保険で加算された18万2000円を返還してもらおうように医療費返還請求運動を呼びかけ、請求書のフォームなども作成しました。該当者は全国協議会および加盟団体に資料の請求をして下さい。

### 最新医療情報 その⑩ 骨髄と再生医療

再生医療というのは、実際に失った機能を取り戻すための医療分野です。例えば「入れ歯」は、実際に失った「歯」の機能を取り戻すための再生医療です。輸血も足りなくなった血液を補う再生医療です。

近年の再生医療については、皮膚移植、骨髄移植等のほかパーキンソン病患者の脳へのドーパミン産生細胞の移植等が行われてきました。しかし、それぞれの移植組織は極端に不足しています。

それらを解決する方策の一つとして、幹細胞の利用があげられます。一定の組織・器官に分化する能力を持つとされる体性幹細胞と、あらゆる組織・器官に分化する能力を持つ胚性幹(ES)細胞は、将来的には移植用の細胞、組織、臓器の作成を通じて医療に貢献することが期待されています。さらに、クローン技術と組み合わせ、個人別の拒絶反応のない臓器を作る可能性も示唆されています。

骨髄幹細胞が神経・筋肉・肝臓の幹細胞にそれぞれ分化することができること、神経または筋肉の幹細胞が骨髄幹細胞に分化することができること、これまでに明らかになっています。このことを利用して、心筋梗塞の患者の冠動脈再生治療として心臓に骨髄幹細胞を注射投与する治療が始まっています。やけどや皮膚潰瘍向けの皮膚移植に、骨髄細胞から皮膚を培養して移植する計画もあります。また、骨髄幹細胞をマウスの目に注射して、血管の増殖を抑えたり、逆に血管を新生させることが研究で認められているため、糖尿病性網膜症や加齢黄斑変性症の治療にも応用が期待されそうです。

今後、特定の幹細胞を種類の異なる幹細胞に再プログラムできる可塑性があることを利用して、試験管内で目的細胞を調製することができるようになれば、疾患の治療において体性幹細胞の利用価値が高まると期待されています。

最近、営利目的のため、民間企業がさい帯血のプライベートな保存を有料で行っています。日本さい帯血バンクネットワークではこのたび、こうした営業活動を行う企業との契約を考えている市民に向けて、注意事項をまとめ、警告文を発表しました。

警告文は6項目からなっていますが、その概要は次の通りです。

### さい帯血バンクが 私的保存で警告!

企業への広告には「凍結保存した細胞を、将来白血病などの治療のため」に使用しているとありますが、移植に使用するには、十分な細胞数が必要です。保存のためには細胞数の確認が必要です。また、宣伝には「将来いくらでも細胞を増やせる」とありますが、これはまだ確立された技術ではありません。また警告文では、移植用の細胞に細菌などが混ざっていると危険として、無菌状態での採取保存が行われているかどうかの確認も必要としています。さらに、私的に保存しても、さい帯血を本人の移植に使う可能性はほとんどなく、世界的に自己のさい帯血を用いた移植について、確かな臨床的データがないとしています。

日本さい帯血バンクネットワークでは、最近の私的保存のため、さい帯血バンクの採取協力施設で混乱が生じていることから、この警告文を発表したものです。

りです。

企業の広告には「凍結保存した細胞を、将来白血病などの治療のため」に使用しているとありますが、移植に使用するには、十分な細胞数が必要です。保存のためには細胞数の確認が必要です。また、宣伝には「将来いくらでも細胞を増やせる」とありますが、これはまだ確立された技術ではありません。また警告文では、移植用の細胞に細菌などが混ざっていると危険として、無菌状態での採取保存が行われているかどうかの確認も必要としています。さらに、私的に保存しても、さい帯血を本人の移植に使う可能性はほとんどなく、世界的に自己のさい帯血を用いた移植について、確かな臨床的データがないとしています。

日本さい帯血バンクネットワークでは、最近の私的保存のため、さい帯血バンクの採取協力施設で混乱が生じていることから、この警告文を発表したものです。

### 骨髄バンクの最新情報をお知らせする

●ドナー登録者数の伸びに黄色信号。前年同月比22カ月連続増加ならず

(1)7月の登録会。開催数、登録者数とも順調。にもかかわらず、取消者が――

7月のドナー登録者数は1619人で、取消者数は1074人、実質増加数は545人という実績でした。登録会は57回実施され(うち献血併行型48回)、合計744人の方にご登録をいただきました。しかし、取消者数が新規登録者数の66%をしめるほど多かったため、登録会回数は増加しているものの、登録者数では前年同月を下回るという結果となりました。都道府県別の登録会開催数は、東京11回、福島9回、石川7回、沖縄6回、秋田4回、茨城、北海道、京都2回、神奈川、新潟、静岡、愛知、大阪、山口、兵庫、熊本、福井、島根、奈良、栃木、徳島、岐阜が1回でした。

(2)地区普及広報委員研修会、各地で開催。ドナー登録推進について共通認識確認

6月23日から8月3日にかけて、全国6カ所において財団地区普及広報委員研修会が開催されました。「行政主導の献血併行」のモデル例である福島県(年間約90回開催予定)、愛知県(年間約70回開催予定)の実績を研究し、各地に浸透させていくことを主眼に、ドナー登録推進について研鑽を積みました。①先進事例の速やかな各地への浸透、②各地における本年度下期計画の上積み、③12月の「推進月間」にお

### 骨髄バンクNOW

る全国一斉登録会の成功(内容は次号でお伝えする予定です)――を確認しあいました。

●骨髄移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」公演情報  
(http://www.osm.ac.jp/asutobi/)

東京、大阪、福岡の各スクールオブミュージック専門学校(以下「OSM」)の学生による「明日への扉」が今年も9月に開催されます。1994年初演のこの作品は、ミュージカルスターを目指す若者たちが、ライバルでもある仲間の白血病発病という事態に直面し、骨髄バンクへの登録、そして提供するまでの心の揺れを中心に展開され、生きることの素晴らしさがエネルギーに伝わります。各会場とも入場無料です。

●日本骨髄バンクの現状(2002年7月末現在)

	6月	現在数	累計数
ドナー登録者数	1,619	156,211	194,088
患者登録者数	168	1,841	12,898
骨髄移植例数	66	—	4,275

注)数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。



### リレー紹介 ● ボランティアの仲間たち

宴会芸ボランティア  
小泉治彦さん(千葉)

宴会芸といえば、千葉骨髄バンク推進連絡会副会長の小泉さんです。小学生の息子さんが冬休み明けに、先生から「お正月に回すものといえど、何でしょうか?」と質問され、迷わず「お皿!」と答えた程、毎日皿回しの練習をしていた小泉さんです。

そして、彼は大変な美声の持ち主でもあるそうです。(と言うのも誰も歌声を聞いていない)暮れに行われる「第九を歌う会」に参加し、その美声を披露しているそうです。真偽の程を確かめたい方は、宴会にぜひ声をかけください。(木村)



# 心からのご寄付を ありがとうございました

7月23日～8月26日

切明蹊	現金	5,000円
国際ソブチミスト東京一けやき	現金	30,000円
(社)川越青年会議所	現金	37,998円
沢崎隆志	現金	25,000円
中島とし江	現金	5,000円
ブリヂストンスポーツ株式会社	現金	382,800円
高嶋宏明	現金	70,000円
新井昭	現金	60,000円
山形庶民信用組合	現金	15,370円
浅井みさ子	現金	1,000円
三品雅義	現金	10,000円
藤井昭律・茶保子	現金	100,000円
寺下智子	現金	3,000円
株式会社タクトコーポレーション	現金	30,000円
ヤマダヤスヒロ	現金	9,475円
山本清美	現金	5,000円
田島香雪	現金	1,000円
木村清一	現金	10,000円
(社)流山青年会議所	現金	39,890円

### ●佐藤さち子患者支援基金

切明蹊	現金	5,000円
沢崎隆志	現金	25,000円

### ●白血病患者支援募金箱

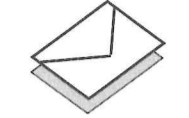
すし兵衛	現金	23,959円
ココストア近江屋	現金	3,687円
株式会社ウエダ薬品	現金	4,811円

(敬称略)

### 活動資金の援助をお願いします

銀行口座  
三井住友銀行 新宿通支店  
普通 5666655  
郵便振替口座  
00150-4-15754  
特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会

## 各地の より



各地のたよりを  
写真を添えて  
お寄せください。



### 香川 併行登録会

香川県初の献血併行型登録会(主催・香川県、財団法人骨髄移植推進財団)が8月12日香川県庁舎にて行われました。前日までに20人の予約があり、最終的には30名(献血は88名)が登録しました。当日の様子は、NHK、瀬戸内海放送で、骨髄移植についてや登録について等の内容が加えられて詳しく放送されました。

### 島根 出雲と県庁で登録会

8月10日出雲市のパラオにおいて出雲ライオンズクラブ主催の移動献血併行型登録会が行われました。当初は松江市で予定していましたが、



しまねまごころバンクの働かけにより出雲市での初の登録会が実現しました。

当日も、しまねまごころバンクが会場づくり、ティッシュ配りに説明員にと協力をしていたいただきました。今回は献血・骨髄バンク・献眼登録も併せての複合型の登録会となりました。お盆前の土曜日ということもあり、大勢の家族連れでにぎわう中で行われました。

出雲市での併行型登録会は初めてでしたが、11名の方に登録をしてもうすることができました。ライオンズクラブからもまた一緒にどうですかと声をかけていただきました。また、16日には松江市の島根県庁舎で登録会が行われ20名の方が登録しました。

初めでしたが、11名の方に登録をしてもうすることができました。ライオンズクラブからもまた一緒にどうですかと声をかけていただきました。また、16日には松江市の島根県庁舎で登録会が行われ20名の方が登録しました。

### 箱根 湯かけまつりから 駅伝にむけ

8月17日、箱根湯本で行われた湯かけまつりで、東京、千葉、埼玉のボランティア有志が、骨髄バンクのPRと募金活動を行いました。湯かけまつりは、地元をはじめ各地から集まったお祭好きがおみこしをかついで湯本の町を練り歩き、そこへ観光客が温泉のお湯をぶっかけるという、勇壮なお祭りです。当日は地元のご協力でよしず張りの屋

8月17日、箱根湯本で行われた湯かけまつりで、東京、千葉、埼玉のボランティア有志が、骨髄バンクのPRと募金活動を行いました。湯かけまつりは、地元をはじめ各地から集まったお祭好きがおみこしをかついで湯本の町を練り歩き、そこへ観光客が温泉のお湯をぶっかけるという、勇壮なお祭りです。当日は地元のご協力でよしず張りの屋

とここでこの活動は、来年のお正月の箱根駅伝で大々的に骨髄バンクをPRしようという企画の一環として行われました。すでに実行委員会も発足し、楽しみながら活動しています。関東近県のみならず、ぜひ実行委員会に参加しませんか。「お正月は箱根駅伝で骨髄バンクを盛り上げよう！」 (二見)



### 静岡 ふれあい夕涼み会

吉田町社会福祉協議会ふれあい夕涼み会「おかあさんの夢」展&片平有紀さんコンサート、お盆休みに入った8月10日に骨髄バンクを支援して、吉田町社会福祉協議会「はあとふる」交流広場で開かれました。

広場の前に作られた手作りの舞台、舞台の横には役場の皆さんの手で「おかあさんの夢」の絵手紙がきれいに展示されました。絵手紙展に熱心に見入る家族連れの方々、そして会場では赤いキティちゃんウチワがあふれていました。

舞台では午後7時から片平有紀さんのコンサートが始まりました。歌を前に有紀さんご自身の口から白血病をのりこえた彼女の熱い思いが静かに語られて、コンサートが始まる前から感動の空気に包まれました。「千と千尋の神隠し」から始まった有紀さんの歌声は彼女の想いが伝わるように透明で美しく、会場を越えた隅々にまで響き渡っていました。予想をはるかに越

えた歌声に魅了され温かさに包まれた一日となりました。

### 高知 土佐清水に ドナー体験4名

1997年、自転車ラリー「ツール・ド・空海」に刺激されて「白百合の会」という骨髄ドナー志願者の会が発足した土佐清水市では、今年春までに4名のドナー体験者が生まれています。高知県全体の26名に対して6分の1に近い比率。人口比が県全体の40分の1という小都市でこの成果は奇跡的だと、高知新聞にも報道されました。

この実話を軸に、骨髄移植・骨髄バンクについての解説や、運動のきっかけとなった童話作家和泉省作さん(1990年に慢性骨髄性白血病で他界)の感動的な作品などを盛り込んだノンフィクション「椿の咲く日まで」骨髄バンクと土佐清水の仲間たち(日本評論社)がこの6月に刊行されました。著者名の秦野純一は、愛媛「骨髄バンク」を支援する会の元会長・三土修平氏(現在東京で財団の地区普及広報委員)のペンネーム。8月6日、白百合の会では、久しぶりに土佐清水を訪れた著者を迎え、親睦会を兼ねたドナー体験報告会を開き、盛り上がりしました。高知新聞の支局長や地元選出のM県議も交え、献血併行型登録会を県西部にも広げて欲しいなどの要望事項も話し合われました。(渡辺)

この実話を軸に、骨髄移植・骨髄バンクについての解説や、運動のきっかけとなった童話作家和泉省作さん(1990年に慢性骨髄性白血病で他界)の感動的な作品などを盛り込んだノンフィクション「椿の咲く日まで」骨髄バンクと土佐清水の仲間たち(日本評論社)がこの6月に刊行されました。著者名の秦野純一は、愛媛「骨髄バンク」を支援する会の元会長・三土修平氏(現在東京で財団の地区普及広報委員)のペンネーム。8月6日、白百合の会では、久しぶりに土佐清水を訪れた著者を迎え、親睦会を兼ねたドナー体験報告会を開き、盛り上がりしました。高知新聞の支局長や地元選出のM県議も交え、献血併行型登録会を県西部にも広げて欲しいなどの要望事項も話し合われました。(渡辺)

1公式訪問・合同例会に全国協議会の大谷貴子副会長が招請講演を行いました。

大谷さんの発病した頃の心境や移植を受けたときの心境を、詳しくお話いただきました。今回の講演は、この12月に例年行っている献血活動に、献血併行型のドナー登録会を企画しており、そのための勉強会の側面がありました。

講演の中、骨髄提供者と、骨髄提供者のご両親がご登壇して、ドナー側の心境を話しました。

骨髄提供者のご両親のうち、ご主人はライオンズクラブの会員でもある現役歯科医師であります。息子さんご提供者になるといつかときには、奥様はとも心配であったそうです。この2人のご理解があったから、息子さんが提供者として骨髄を提供できたことを考えると、家族の理解の重要性を改めて感じました。

12月の献血並行型のドナー登録方式がライオンズクラブのお力をかりて成功裏に終わり、今後の岡山の他地区での試金石となり、献血並行型のドナー登録方式が広く行われることを祈願いたします。(金藤)

大ホールで、ミュージカル「サンキュー命をありがとう」が上映されました。このミュージカルは、流山青年会議所の創立20周年記念事業として企画され、公募で選ばれた市内の小学生45名が四国徳島の劇団びいたあばんと共演しての公演でした。公募小学生の練習は6月から始まり、猛暑の中も市内の小学校の体育館で練習を重ね、本番に備えたそうです。練習の成果があつて、びいたあばんの団員に負けず劣らずの熱演でした。

白血病のクラスメイトを助けるため、ドナーを探すというミュージカルのストーリーだったため、公演に先立って東ちづるさんのビデオレターで紹介され、ホールのロビーでは「あやちゃんの贈り物展」も開催されて、骨髄バンクへの理解を呼びかけました。

公演終了後には出演者の小学生が勢揃いして募金を呼びかけました。(鈴木)

岡山  
大谷副会長が  
LCで講演

岡山県のライオンズクラブの国際協会4R-3Zガバナ

### 千葉 小学生も 熱演ミュージカル

8月3日、流山市文化会館

ライオンズクラブ国際協会 336-B地区  
4R-3Zガバナー公式訪問・合同例会

